2012.08.03

富山大学附属病院にて海外からの患者を受け入れ

デンマークからもやもや病の患児を受け入れて脳血行再建術を実施

平成24年8月3日(金)、富山大学附属病院は、もやもや病に罹患した５歳の女児をデンマークから受け入れて手術を実施し、無事に退院したことを記者会見にて発表しました。会見には脳神経外科の黒田　敏教授のほか、担当医の濱田秀雄講師、秋岡直樹助教が出席しました。当日、数社のテレビニュースで報道されたほか、翌日、読売新聞、朝日新聞、北日本新聞、富山新聞に記事が掲載されました。富山大学附属病院が海外からの患者を受け入れて治療を実施したのは、今回が初めてです。

この女児は２年前にもやもや病に罹患して脳梗塞を繰り返したため、昨年、ベルリンで脳血行再建術を受けましたが、その後、頭痛や手足の脱力発作の頻度が増加したため、デンマークの小児科医から、もやもや病の豊富な治療経験を持つ黒田　敏教授に治療の依頼がありました。平成24年6月25日に入院したのち、6月29日および7月18日の二度にわたって追加的な脳血行再建術を実施しました。その結果、毎日のように発生していた頭痛や脱力発作は著しく減少し、術前は発作による疲労でぐったりしていた女児は、術後、とてもにこやかで活発な状態にまで回復しました。今後、富山市内でしばらく療養したのち、８月下旬にデンマークに帰国する予定です。

もやもや病は、両側の内頚動脈が進行性に狭窄する原因不明の疾患で、小児、成人ともに罹患することが特徴です。もやもや病は、厚生労働省が難治性疾患克服事業の対象に指定しており、黒田　敏教授は、長年、この研究班のメンバーを務めています。もやもや病に罹患した場合、脳の血流を回復するための脳血行再建術が必要となりますが、この治療の豊富な経験を有する脳神経外科医は日本でもそれほど多くないのが現状です。黒田　敏教授はこれまでに200件以上の治療経験を有しています。

女児は記者の方々の質問に「デンマークに帰国したら幼稚園に戻って、友人と遊んだり、大好きな乗馬や水泳を楽しみたい」と答えました。

平成24年8月4日 富山新聞より